



## 冬芽のごとく

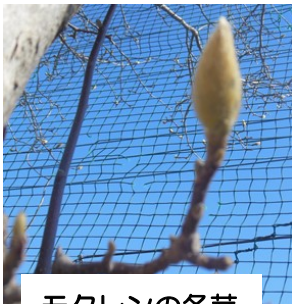
いよいよ3月を迎えます。春のような温かさの日があったと思うと、次の日には冷たい雨……。日ごとの寒暖差があり、朝夕の冷え込みも厳しく感じられます。今年のサクラの開花は、例年より少し早く、関東地方は3月21日ごろといわれています。あと20日もすれば、また教室の窓から見えるサクラの木々が次第にピンク色に染まっていくと思うと楽しみです。

まだ、この時期は、常緑樹以外は葉を落とし、学校内の木々は鮮やかに欠けています。しかしよく見るとサクラやモクレンに小さなつぼみがついていることに気が付きます。



サクラの冬芽

このつぼみは、冬芽といって、冬を越し次の春に花になる花芽と葉になる葉芽に分けられます。この芽は、夏の終わりぐらいから秋にかけてつぐられ、冬本番になる前に冬芽となります。冬芽に見られる魚の鱗のようなかたい皮やふわふわの毛は、冬の寒さや乾燥から身を守るためのものですが、冬芽をつけた植物は、冬の間、寒さに耐えているだけではなく、ゆっくりではありますが着々と春に向け成長しています。かたい殻に覆われたサクラの冬芽の内側では、この時期に花粉の形成がされていると言われています。



モクレンの冬芽

学校内のいろいろな草木の冬芽を見ると色や形状は違えど、この冬の寒さに耐え、もうそこまで来ている春に鮮やかな葉を広げ、美しい花を咲かせようと着々と準備している姿がうかがえます。

今年度も残すところあと、1か月となりました。この学年、この学級で過ごす日も6年生は13日、5年生以下は16日。4月からの進級や進学に向けて、それぞれの学年で学習のまとめに入っています。全校でも6年生から5年生への引継ぎ式や新しい登校班の編成など新年度の準備が行われていきます。

寒さに耐えながら着々と春の準備をする冬芽の如く、子どもたちに1年間の成長をしっかりと見つめさせるとともに、足りないところを補い、新たな学年での飛躍に向けた準備を職員一同、支援していきたいと思えます。



(校長)